

英語科学習指導案

日 時 平成26年6月5日(木) 公開授業 I
学 級 岩手大学教育学部附属中学校
1年C組 40名
会 場 2C2D 教室
授業者 山崎 健志

1 単元名 LESSON 3 “I like Kendama” (NEW CROWN ENGLISH SERIES 1)

2 単元について

(1) 生徒観

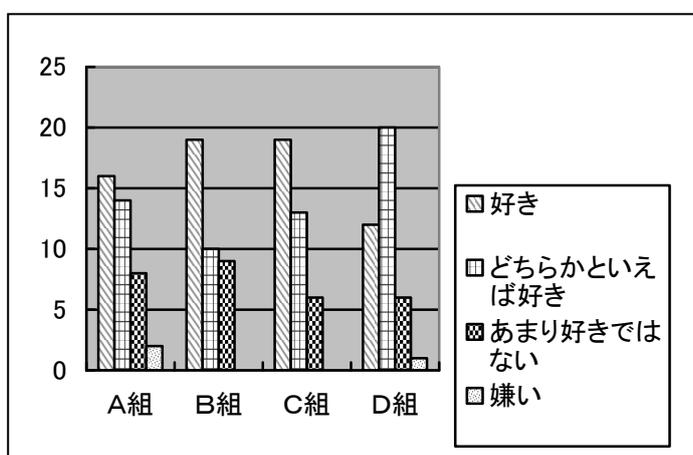
生徒はこれまでに、自己紹介や自分の気持ち・状態の表現、人や物の紹介、それに関わる簡単な質問・応答など、主に聞く話す活動を中心に学習を進めてきた。Lesson 3 の後に設定されているミニプロジェクトをこれまでの学習のまとめとし、学習してきた言語材料を総合的に使用できるような活動を仕組みたい。

中学校での英語学習を始めたばかりの現在は言語材料に限りがあり、生徒の興味関心や言語を使用する必然性等を考えた時、十分満足な活動を仕組

むことは容易ではない。また、言語活動自体も、自己表現よりも言語材料の獲得に重点が置かれる。そこで、活動を仕組む際には、生徒自身ができるだけ考えたり選択できる余地のある活動ができるように意識している。また、ペアワークやグループワークの際には、未習の表現でも必要に応じてフレーズとして導入し、実際に使用させながら、場面や状況に応じた英語を使えるように指導している。

生徒はみな英語活動や外国語活動を通じて小学校で英語に触れてきている。オリエンテーション時に実施したアンケート結果から、生徒の英語学習に対する印象については、図1のとおりである。学習に対して前向きな回答をしている生徒が多いが、「どちらかといえば好き」と回答した生徒の中にも「書くこと」「多くの単語を覚えること」等に不安を訴えている生徒は少なくない。各クラス約半分から2/3の生徒が文字と音の関係や単語を覚えることに何らかの不安を感じていることが分かった。また、学校以外で英語を学習している生徒の割合は約71%<N159>であった。すでに英語検定の級を取得している生徒もおり、1年生で学習する内容はほぼ終了している生徒も数名いる。一方で小学校での活動以外に全く英語の学習をしていない生徒もおり、学習が進んでいる生徒の興味関心を失わせないように配慮をしながら、基礎的な学習が必要な生徒の英語学習を保障したい。このような実態から、文字と音をつなぐ指導（フォニックスの基本的なもの・発音記号等）や辞書指導、また、十分なインプットからアウトプットへと活動を仕組むように配慮したい。

これまでの表現活動としては、主に音読やペアでの対話練習・発表など、インプットに重点を置いた活動の後に、対話を暗記し、対話の一部を入れ替えてスキットを暗唱する活動や質問応答、人や物の紹介などの活動を行ってきた。言語の使用場面や状況がある程度設定されているスキットを、相手を意識して再生する練習を通して、言語の使用場面やどんな時に使う表現なのか等について、生徒が意識して学習できるように意図している。しかしながら、必要な時に即時に表現を口にしたたり、状況に合わせて柔軟に表現を使用する等の力はまだまだ不十分で練習が必要であり、「英語を活用して主体的にコミュニケーションを図ることができる生徒の育成」を目指し、今後も引き続き指導にあたりたい。



[図1]

(2) 教材観

本単元の題材内容は「好きなもの」である。これまでの単元で、「あいさつ」や「人やもの」について学習し

ている。自己紹介、自分の出身や気持ちの表現、また、ものや人の簡単な紹介から、自分の好きなことやスポーツなどについての表現へと、生徒にとってはやや複雑になるが、自分自身の身の回りのことについて英語で表現できることが増え、英語の表現についてさらに興味関心を引き出すことができると考える。この単元で学習する表現自体は、既に小学校外国語活動で慣れ親しんできているものであるため、音声的にはさほど抵抗なく発話できると考える。

文法についての説明は必要最小限にとどめ、これまで通り、インプットを十分に取り入れた後に必然性を伴った場面や状況での効果的なアウトプットを仕組むことで、言語材料の定着を図るとともに学習した表現を適切に活用できる力をつけていきたい。

単元の学習内容や言語材料のみにこだわることなく、できるだけ生徒が興味・関心をもって取り組めるような活動を仕組むことで、生徒が自ら既習事項を振り返り、選択・活用し、スパイラルな学習ができるような力をつけたい。

言語材料としては「一般動詞の肯定文・疑問文・否定文」「what＋一般動詞の疑問文」を扱う。これまでに学習している「be動詞」の文とは異なる点、また、教科書で取り上げられているのは全て他動詞であり、語順にも十分注意が必要である。そのため、できるだけ多くのインプットを意識し、その後、実際に自分のことを伝えたり、ペアやグループで質問・応答する等の活動を通して定着を図りたい。

なお、本題材は学習指導要領の次の目標に対応する。

- | | |
|--------|--------------------------------------|
| ア 聞くこと | (ウ) 質問や依頼などを聞いて適切に応じること。 |
| イ 話すこと | (エ) つなぎ言葉を用いるなどのいろいろな工夫をして話を続けること。 |
| オ 書くこと | (ア) 文字や符号を識別し、語と語の区切りなどに注意して正しく書くこと。 |

(3) 学びの自覚化について

本校英語科では「学びの自覚化」において「自らの変容の自覚」に視点を置いた。「変容」とは、1単位時間や単元、年間の学習における自分の変化、考えの変化を自覚することで自らの学びを高めることである。その変容がどうして起きたのか、その過程に気づくことでさらに主体的に学習に励むことが期待されると考えた。英語科の教科特性により、生徒は徐々に言語材料が身につき、スパイラルに学習を積みかさねることで、活用できる英語も増えてくる。そのため、年間や単元を見通して計画的にフィードバックを取り入れ、「学びの自覚化」に迫りたい。そのため、単元のデザイン、ゴールの表現活動を生徒と共有したいと考える。また、英語を通して表現したものや他者とのコミュニケーションの中で、自分の課題や変容を感じさせ、自覚させたい。

本単元のまとめでは、特に「自分の変容の自覚」に重点を置いた指導を行いたい。既習事項を想起させながら自分自身の自己紹介取り組ませる。まずは、実際に自己紹介ができる場面で自分の英語が相手に伝わっているという実感を持たせようとして自己紹介文を作成させる。話すという段階ではエラーにはこだわらずに伝えようとする意欲を大切にさせたい。しかし、自分の発話内容を文字に興す際には文法や語順等に気をつけさせ、これまでに自分が学んできたことを振り返りながら学習のまとめをさせ、1学年の年間英作文テーマである“Myself”につなげたいと考える。

以上のことを踏まえて、手立てとして次の二つを掲げる。

- | | |
|----------------|--------------|
| ① 年間及び単元の構想の工夫 | ② 振り返りシートの活用 |
|----------------|--------------|

① 年間及び単元の構想の工夫

本校英語科では、学年ごとに年間を通した英作文テーマを設け、年間のゴールに関連した題材で英作文活動を年に数回行うことに取り組んでいる。また、それぞれの単元においては、教科書題材に関連させた表現活動を取り入れており、既習事項や単元で学習したことを活用しながら、生徒がスパイラルに学習を進められるよう、年間テーマと各単元につながりをもたせるよう工夫している。

本単元も年間テーマにつながるステップであるため、それぞれの言語材料を練習する活動と、自分自身のことを表現する活動とをバランスよく設定し、最終的には既習事項との関連を図りながらまとめの活動へとつなげたい。

② 振り返りシートの活用

中学校1年生前半では様々な言語活動を通して、できるだけ多くの言語表現を獲得させることが重要である。また、自己の学びを自覚するためには、努力した結果できるようになった、わからなかったことがわかったなどの自己効力感をいかに持たせるかが大切だと考える。そのためには実際に表現を使用するための課題が重要となる。生徒にとって魅力ある課題を設定し、課題をクリアするために必要な表現を練習して使い、課題の解決を目指して必要な言語材料や表現を何度も使用することで、それらが少しずつ身に付けられるよう意識している。また、生徒のできた・わかったという状態を、表記して客観的にまとめさせ振り返らせることで、学びの自覚に繋がっていきと考える。生徒はこれまで、個人、ペア、グループ等の形態で学習に取り組んできているが、実際に言語を使用する活動を体験させそれを振り返らせることで、今何ができて何ができないのかが自覚できたり、次にどんな事を学習したいか、する必要があるかなど、今後の学習への興味・関心や意欲をもつことにつながっていると考える。

表1 1学年の年間英作文テーマ“*Myself*”の表現活動に至るまでの学習デザイン

		総合学習	単元	主な言語材料	主な題材	主な表現活動	
4	1 2 3	1学年 【自分自身を見つめる】	Lesson 1 I am Tanaka Kumi	be動詞[am,are] 形容詞	あいさつ 自己紹介	【自己紹介】 初対面の人に質問をしながら 対話をする	
5	1 2 3 4		Lesson 2 My school	be動詞[is] 疑問視what 三人称 [He is~,She is~] What time is it~?	学校案内 家庭生活		・相手意識 (Speaking) ・内容を自己決定し、既習事項 を活用する
6	1 2 3 4		Lesson 3 I like Kendama	一般動詞[have, know, play] Where is~?	好きなこと 日常生活		
7	1 2		Lesson 4 Field Trip	複数形 数のたずね方 命令文 How much is~?	校外学習 買い物	【自己紹介文を書く】 自分らしい自己紹介文を書く	
8	1		Our New Friend from India	疑問詞[who, where, when] 代名詞 (目的格) [him/her] Whose~is this?	新しいクラスメイト 学校生活		
10	1 2 3 4		Start Reading My Treasure		読み物	【他者紹介】 インタビューをしてその内容を紹介する	
11	1 2 3 4		Lesson 6 My Family in the UK	三人称単数現在 What time do you~?	イギリスの文化 学校生活		・相手意識 (Speaking, writing) ・インタビューを工夫して、相手の 情報を引き出す
12	1 2 3 4		Let's Read1 Alice and Humpty Dumpty		文学に触れる	【紹介文を書く①】 インタビュー結果をもとに他者を 紹介する文を書く	
1	1 2 3 4		Lesson 7 Wheelchair Basketball	助動詞can Can you~?	いろいろなスポーツ 電話		
2	1 2 3 4		Lesson 8 School Life in the USA	現在進行形 How can we go to~?	外国の中学校生活 旅行	【学校の紹介】 附属中を英語で発信する！	
3	1 2		Lesson 9 Four Seasons in Japan Which~,A or B?	一般動詞 (過去形)	日本の身近な年中行事 食事		・相手意識 (Speaking, writing) ・学習した表現を活用して、附属 中を英語で紹介する
3	1 2		Let's Read2 A Girl Saved Many Lives		安全	【自分自身を見つめる】 【Myself】 自分や自分の学校について英語で紹介文を書く	

3 単元の指導目標

(1) 指導目標

- ①既習表現を用いて自分が紹介したい内容で、質問を交えながら自己紹介をすることができるようにする。
- ②一般動詞、whatの疑問文に適切に回答できる。
- ③一般動詞の肯定文、疑問文、否定文、whatを用いた文の意味・構造が理解できる。

(2) 評価規準

外国語表現の能力	① 既習表現を用いて自分が紹介したい内容で、質問を交えながら自己紹介をすることができる。 ② 文字や符号、語と語の区切りなどに注意して簡単な英語で自己紹介文を書くことができる。
外国語理解の能力	① 質問に適切に回答できる。
言語や文化についての知識・理解	① 一般動詞を用いた文の意味・構造を理解している。 ② 疑問詞whatを用いた文の意味・構造を理解している。 ③ コミュニケーションのマナーを理解して実践できる。

4 単元の指導計画および評価計画

時間	主な学習内容と学習活動	評価規準	評価方法
1	○本単元で学ぶ題材や身につける技能や理解する内容を知る。 ・本単元のゴールを知る。		
	○一般動詞have/like/playなどを理解し、使う。 ・好きなことの紹介の仕方を知る。 ・好きなものや好きなことについて英語で説明する。 ・自分の好きなものや大切にしている物の写真等を見せながら紹介する。	言知①	後日ペーパーテスト
2	○好きなものや好きなことについて紹介する。 ・教科書本文の概要を理解する。 ・教科書本文を音読し、暗唱する。		
3	○一般動詞の疑問文の構造を理解し、使う。 ○一般動詞の否定文の構造を理解し、使う。 ・好きなものや好きなことなどについて質問を交えながら対話をする。	言知②	後日ペーパーテスト
4	○好きなものや好きなことについて対話をする①。 ・教科書本文の概要を理解する。 ・教科書本文を音読し、ペアで対話を暗唱する。		
5	○一般動詞の否定文、whatの文の構造を理解し、使う。 ・好きなものや好きなことなどについてwhat＋一般動詞の疑問文を交えながら対話をする。	言知②	後日ペーパーテスト
本時			
6	○好きなものや好きなことについて対話をする②。 ・教科書本文の概要を理解する。 ・教科書本文を音読し、ペアで対話を暗唱する。		
7	○質問を交えながら自己紹介をする。 ・自己紹介したい内容を決め、英語で言えるように練習する。 ・実際に初対面の人に自己紹介をする。	表① 理① 言知③	VTR撮影
8	○自分が行った自己紹介を書く ・文法や語順に注意して文を書く。	言知②	自己紹介文で評価

5 本時について

(1) 主題 インタビューをして情報を得よう～ Let's find 5 students! ～

(2) 指導目標

既習の言語材料及び言語表現や本時に学習した表現などを用いて、英語でコミュニケーションをしようとする。

(3) 本時の評価規準

本時では、観察評価及び形成的評価はするが総括的評価は行わない。後日行うペーパーテスト・パフォーマンステスト及び作成する自己紹介文により総括評価をする。

(4) 指導の構想

本時は、Lesson3 の GET Part3 の1時間目(単元5/8時間目)である。導入ではリスニングから場面や状況を確認するとともに、対話で使われている表現を聞きとらせ、本時の目標を確認する。生徒が自然に本時の表現を練習できるよう流れを工夫したい。また、本時の表現を使うために必然性のある課題・場面を設定し、実際に本時の表現を何度も使用させることで生徒が「できた・わかった」という自己効力感を得られるようにしたい。

本時のポイントとなっている言語材料は「一般動詞の否定文」と「what+一般動詞の疑問文」である(「一般動詞の否定文」は GET Part 2 で学習)。これを生徒ができるだけ多くの回数本時の表現を口にするために、インタビューに場面設定をする。事前に実施した生徒の自己紹介アンケートの情報をもとに教師が5人の生徒を抽出し、その生徒に関わる情報の一部を示す。活動は4人グループ形態で行い、各生徒は一人2分間でできるだけ多くの級友にインタビューをし、示された情報に適合する生徒の情報を可能な限り集める。インタビュー活動を通して、聞き手の生徒は一般動詞の疑問文や「what+一般動詞の疑問文」を使って質問をし、尋ねられた側は肯定や否定の応答をしたり、必要な情報を適切に伝える。

また、活動中には必要に応じて簡単なフレーズや今言える表現などは適宜使わせるようにし、言葉が足りなければジェスチャーを用いる等、自分の思いや感想など、相手に伝えたいと思う事をできる限りの英語で伝えようとする姿勢づくりを大切にしながら、相手や仲間への意識、場面・状況等を考える姿勢を育てていきたい。

(5) 本時の展開

段階	学習内容及び学習活動	時間	■学びの自覚化との関わり
導入	0. 3分前学習 ・英語の歌“Sing”を歌う。		
	1. あいさつ ・お互いに“状態・曜日・時間”をたずねる。 2. リスニング ・聞き取った内容、表現、場面等から本時の目標を確認する。	3 3	■本時の活動の目的、課題を捉える
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 0 auto; width: fit-content;"> インタビューをして情報を得よう ~Let' s find 5 students !~ </div>			
展開	3. 必要な表現の確認 ・必要な言語材料に気付き、確認する。	3	■本時の活動に必要な表現に気づく。
	4. 本時の表現の練習 ・ペアでパタンプラクティスに取り組む Do you like ○○? Yes, I do. / No, I don't. What do you like? I like ○○.	15	■本時の表現を滑らかに言えるように練習する
	5. 言語活動 ・本時の表現を使って、できるだけ多くの情報を集める。 ・4人グループ ・一人の持ち時間2分×4	17	■練習した表現がインタビューに役立つことに気付く。
	6. 解答の確認 ・予想とあっているか確かめる。	3	
	7. まとめ ・本時に使用した表現をノートに書いてまとめる。	4	■発話した表現を表記できるか確認する。
終結	8. 学びの振り返り ・本時を振り返り、「学習チェックシート」に記録する。	2	■本時の学習でできたことやできなかったこと、疑問等を自分自身で捉える。
	9. あいさつ		

●教室で、僕たちが好きなことについてエマと話しています。

聞いてみよう 🗣️ 会話を聞いて、それぞれの人物についてあてはまる絵を線で結ぼう。

①  Takumi	②  Ken	③  Ryo
 rugby	 spaghetti	 shamisen



POINT

①「私は～しません [～いません]」
I play the *shamisen*.
I **do not** [don't] play the *shamisen*.
Do you have a *shamisen pick* in your hand?
②「あなたは何を～しますか [～いますか]」
What do you have in your hand?
I have a *shamisen pick*.
文法の要領 p.43

Emma: What do you have in your hand?

Ken: I have a *shamisen pick*.

Emma: *Shamisen*? Cool.

What music do you play?

Ken: I play traditional Japanese music.

But I don't play it well.

Words
rugby
spaghetti
pick
hand
cool
traditional
but
well



話してみよう 🗣️ 例にならって、好きな食べ物について話してみよう。

④ A: I like sushi. What do you like?

B: I like spaghetti.

A: I like it too. / Really? I don't like it.



書いてみよう 📝 会話が成り立つように、☐に入る文を考え、書いてみよう。

